

建屋カバー解体に向けた飛散防止剤散布と調査の状況について (平成26年10月28日実績)

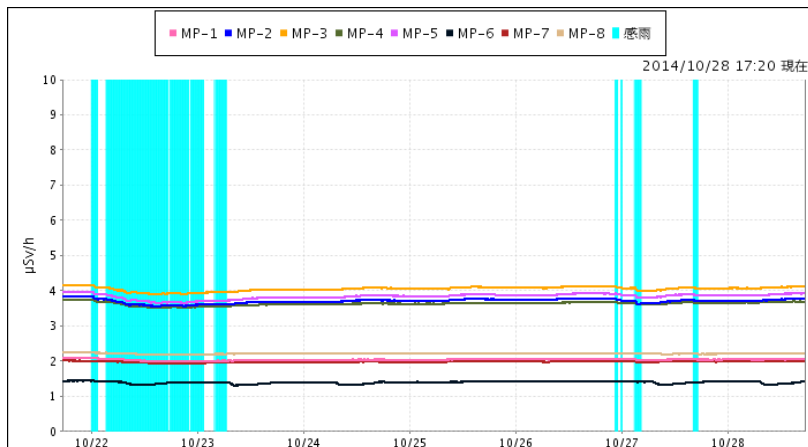
平成26年10月28日

1. 本日(10月28日)の作業項目

- ・ 北2、南2パネル貫通飛散防止剤散布(ドーナツ状)

2. 敷地周辺および敷地内への影響

- (1) 敷地境界のモニタリングポスト : ● (有意な変動: + 2 $\mu\text{Sv/h}$ 以上の変動)
 ・ 有意な変動はありませんでした。



- (2-1) 作業現場のダストモニタ[1号機] ● (警報設定値: $5 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$)
 ・ 警報の発報はありませんでした。

- (2-2) 3号機原子炉建屋のダストモニタ ● (警報設定値: $5 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$)
 ・ 警報の発報はありませんでした。

- (3) 建屋周辺のダストモニタ : ○ (警報設定値: $1 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$)
 ・ 警報の発報はありませんでした。

- (4) 構内のダストモニタ : ● (警報設定値: $1 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$)
 ・ 警報の発報はありませんでした。

- (5) 敷地境界付近のダストモニタ : ▲ (警報設定値: $1 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$)
 ・ 警報の発報はありませんでした。

(参考) モニタリングポストとダストモニタの設置地点



モニタリングポストのリアルタイムデータにつきましては、当社ホームページ「福島第一原子力発電所構内でのモニタリングポスト計測状況」
<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/index-j.html> からご覧いただけます。

(補足)

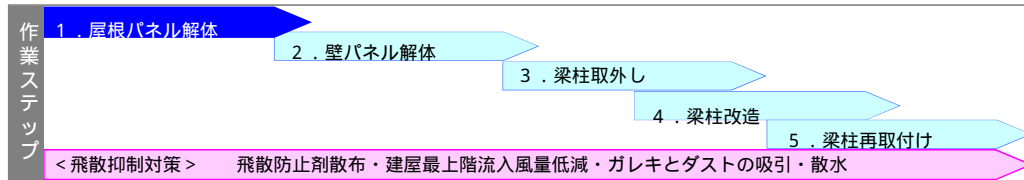
- ・ 作業現場のダストモニタの警報設定値は、敷地境界のモニタリングポスト周辺に設置したダストモニタの警報設定値($1.0 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$)を元に、放射性物質の拡散を考慮して保守的に $5.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ と設定した。
- ・ 建屋周辺および構内のダストモニタの警報設定値($1 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$)は、当社が規定するマスク着用基準(線量告示の第4欄「放射線業務従事者の呼吸する空気中の濃度限度(Cs-134代表)」の10分の1相当)の2分の1を設定。

3. 本日（10月28日）の作業状況

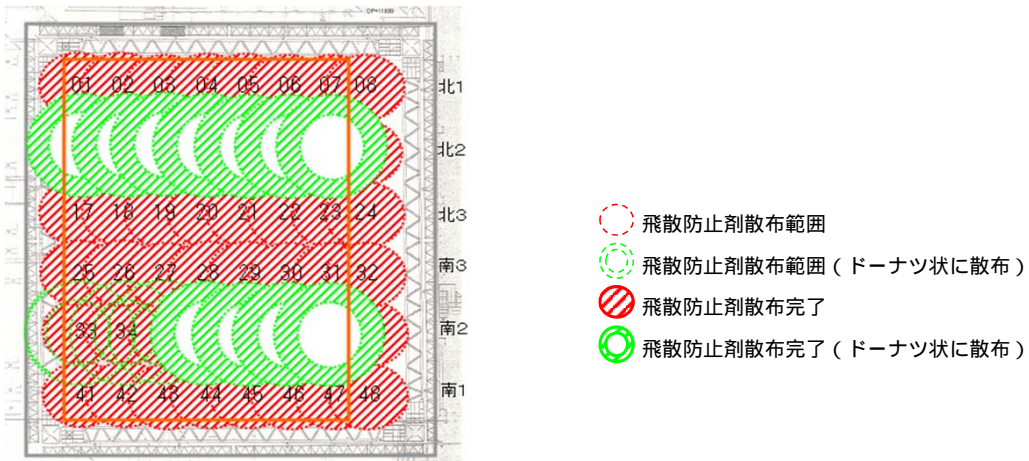
(1) 作業時間
6時18分～10時12分

(2) 作業前の風向/風速
南西の風 / 1.0 [m/s]

(3) 作業ステップ



・飛散防止剤の散布範囲：床面（建屋最上階）、屋根（裏面）



4. 明日（10月29日）の作業予定項目

・南2パネル貫通飛散防止剤散布（ドーナツ状）
（作業予定時間：6時00分～15時00分）

5. その他

本日8時23分頃、福島第一原子力発電所1号機原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル孔部(南2パネルNo36)より飛散防止剤を散布中、先端ノズル部が風により動き、孔の開口が目測で約1m×2mの三角形に拡大しました。また、当該作業を中断して以降、その後も風が強い状態が続いたことから、本日の作業は順延としております。なお、孔の開口が拡大した状態（約1平方メートル）で、放出量評価に与える影響は少ないことを確認しております。

以上